



かけはし



この世をば わが世とぞ思ふ…

こんき
パワー



◆「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の かけたることも なしと思へば」

「この世は自分のためにあるようなものだ。満月の欠けたことがないように。」＝「もう自分の思うようにならないことは一つもない。」という意味になるのでしょうか。平安時代の貴族、藤原道長の言葉です。道長は、彼の悲願であった藤原摂関家の揺るぎない地盤の完成を確信したため、栄華の象徴としてこの歌を詠んだと言われています。

しかし、自分自身に自信をもつことは大切ですが、それが過信となってしまっただけではその後の成長が止まってしまう。満月になれば、次の日からは欠けていくばかり。一つのことを成し遂げて満足したからといって、そこで努力をやめてしまうと力は落ちていくばかりではないのでしょうか。

◆最近、新聞等で読んだ3人の言葉を紹介します。



49歳でプロ野球最年長勝利を挙げた中日の山本昌投手。

「完成なんてない。完成していたら全部勝てる。」そして、「一生懸命投げる。しつこく投げる。諦めずに投げる。それが31年不変のスタイルだ。」

9月30日朝日新聞

体操の世界選手権で5連覇を達成した内村航平選手。

「見る人に『衰えた』と感じさせたら、今の地位は保てない。ずっと進化し続けていると思わせたい。」「25歳を乗り越えれば、リオデジャネイロ五輪につながる。」

10月9日朝日新聞

ノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇・天野浩・中村修二の3氏。その中の赤崎さんは、他の研究者が見限った窒化ガリウムという材料にこだわり、研究を実らせたそうです。その赤崎さんを支える小学校時代の先生の口癖。

「カンツケ。」 故郷鹿児島の方言で**「噛みつけ。」** 諦めるなという教えです。 10月9日朝日新聞

◆3人とも活躍する世界は違いますが、今の自分に満足することなく、また決して諦めることなく、常により高い自分を目指して努力を続けているところに共通点があるのではないのでしょうか。この3人と同じ人生を歩むことはできません。しかし、この3人と同じような心をもって生活することはできます。

本校の児童は、先日の運動会で素晴らしい演技や競技をすることができました。それは、とりもなおさず毎日の努力のたまものです。苦しい練習を続けたからこそ味わえた喜びです。やればできた力を信じて、まだまだ自分にはできる力があると信じて、より高い目標に向かって努力を続けることが大切なのです。



藤原道長の「この世をば わが世とぞ思ふ…」という歌は、自分への慢心を戒める言葉として覚えておきたいものです。